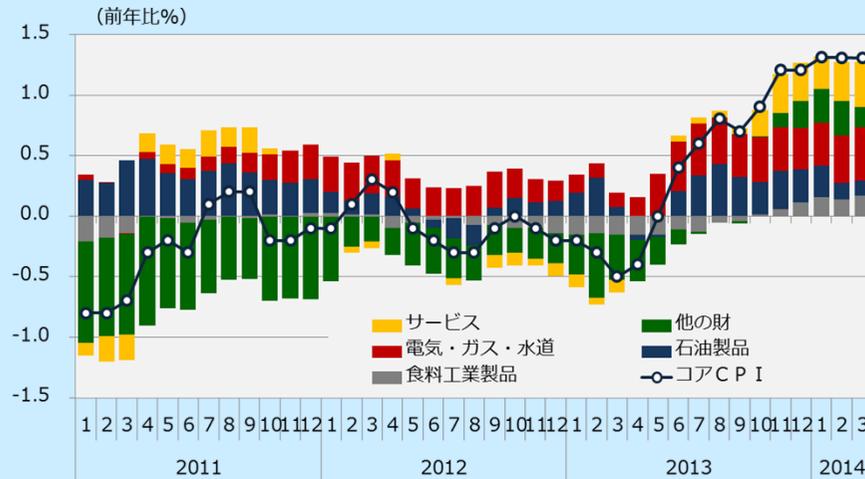


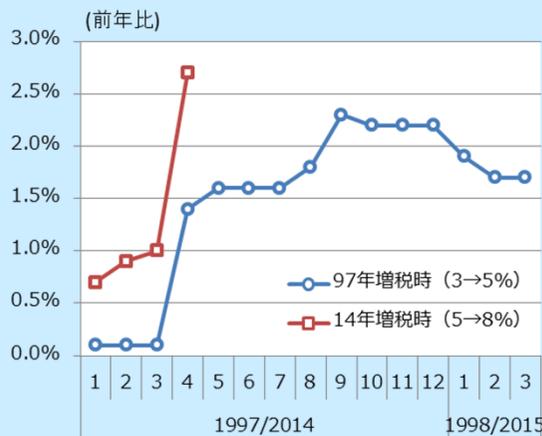
## 消費者物価指数（全国14年3月、東京都区部4月）

MRI Daily Economic Points  
April 25, 2014

## 消費者物価（全国）



## 消費者物価（東京都区部）



資料：総務省「消費者物価指数」

	2014年 3月	2014年 4月	変化幅
総合	1.3%	2.9%	1.6%
コアCPI	1.0%	2.7%	1.7%
コアコアCPI	0.4%	2.0%	1.6%
食料	2.2%	4.4%	2.2%
住居	-0.6%	-0.2%	0.4%
光熱・水道	6.1%	6.3%	0.2%
家具・家事用品	1.9%	4.3%	2.4%
被服及び履物	0.1%	2.0%	1.9%
保健医療	-1.0%	1.1%	2.1%
交通・通信	0.9%	2.9%	2.0%
教育	0.9%	2.8%	1.9%
教養娯楽	1.8%	5.1%	3.3%
諸雑費	2.7%	4.8%	2.1%

## 評価ポイント

## 全国(14年3月)の結果

- 14年3月の消費者物価指数(全国)は、生鮮食品を除く総合(コアCPI)が、前年比+1.3%と、5カ月連続で1%を超える伸びとなった。食料及びエネルギーを除く総合(コアコアCPI)は、同+0.7%となり、2月(同+0.8%)から伸びが若干低下した。
- 円安効果の一巡などによりガソリンなど石油製品の押し上げ寄与が縮小しつつある一方、電気料金(前年比+10.0%)のほか、傷害保険料(同+10.1%)や外国パック旅行(同+13.2%)などサービス価格が上昇している。

## 東京都区部(14年4月中旬速報)の結果

- 14年4月の消費者物価指数(東京都区部)は、生鮮食品を除く総合(コアCPI)が、前年比+2.7%と3月(+1.0%)から+1.7%pの上昇となった。本指標は、消費税増税後の物価動向をみるうえで注目されていた。
- 3月からの変化幅について品目別にみると、食料など多くの品目が1.9%p～2.4%p程度の上昇幅となった。教養娯楽が宿泊料の値上がりなどから3.3%pの上昇となった。一方、住居や光熱・水道の上昇率は横ばいにとどまった。これは、家賃は基本的に非課税であるほか、光熱・水道では消費税法上の経過措置により5月以降の徴収分から適用開始されるケースが多いためである。

## 今後の流れ

- 物価の先行きを見る上で、消費税の影響とそれを除いたベースの動きを分けて考える必要がある。まず、消費税の影響は、東京都区部をみる限り消費税分の順当な転嫁が行われている模様。公共料金等の経過措置が解除される年央にかけて消費者物価は伸びを高めていく可能性がある。
- 一方、消費税を除く物価は、①円安効果の一巡による伸び鈍化、②需給ギャップ縮小による物価上昇圧力の強まり、が綱引きする展開が予想され、年央にかけて一旦伸びが鈍化した後、緩やかに再上昇していく姿が予想される。